

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 7 号

令和元年 12月 13日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 岩 羽 純 一

【提案日時】

12月 4日（水）

【会 場】

横浜市立西富岡小学校

講師 藤馬 享 先生

（関東学院大学教育学部子ども発達学部准教授）

講師 山田 仁 先生

（西部授業改善支援センター授業改善支援員）

提案 広田 哲 先生（西富岡小）

司会 呉屋 雄紀 先生（師岡小）

記録 松尾 一樹 先生（小田小）

单元名「今に伝わる伝統行事」～横須賀の二つの虎踊り～

授業者より自評

○子どもが一生懸命だった。

○单元を選んだのは、能見台に昔からある祭りが無い。虎踊りは子どもも参加している。

○虎が子どもにとって親しみやすいと感じた。

○本時は時間配分に課題があった。まとめまでいきたかった。

聞きたいことは2点

- ・子どもとつくった問いが本気の学習問題であったか。
- ・子どもが本時の学習問題を考えるときに「どうして町内会の人しか」と考えられるようにするためにはどうしたらよかったのか。

全体質問

○「細く長く続けていくこと」「町の人とのかかわり」をとらえさせたいとあるが、今日つかませたかったことは何だったのか。

○子どもが資料を探していた。どの資料に答えがあったと考えるか。

○池谷さんの資料の「こだわり」を「熱い思い」に変換したことについて。

○継承していくことの意味とは。

授業者から

○復活してから困難が続き、その中で規約の変更などをして乗り越えたことから伝統文化を受け継ぐことを捉えさせたかった。

○保存会の規約に書かれていることからつかませたかった。この資料から地域の人が町内会の発展のために行っていることに気付いてほしい。

○こだわりに関しては、自分自身とまどった。子どもに意味が届いていなかった。

⇒どのように「こだわり」を解釈させるべきだったか。

○継承＝自分たちの祭りが続いていくこととだと考えている。

グループ討議

○もう少しテンポよく学習問題へ行けた。授業の出口も子どもの授業で語られたら良かった。2度の復活をしてきたところをじっくり考えるのもよかった。

○規約を読んで沈黙⇒本気で考えていた結果ショックを受けたのでは。資料を答えにしてほしくなかった。

○教材として考える内容が難しかった。行ったことのない、見たことのないものは難しいのでは。

○資料で思考が深まっていた。しかし課題が難しいと感じた。

○資料をもとにして考えるには時間が足りなかった。

○真剣に増やすことを考えた結果の沈黙だったのでは。

○子どもの思考と資料のズレから生まれた課題がよかった。

○最初から池谷さんの資料を出しても良かったのでは。

全体協議

○「なんでこだわる」ということに対して「何を根拠に考えるのか」が必要だったのではないか。池谷さんは地域に対してどう考えているのかを知る必要があったのでは。

○「町の人たちだけでやっている＝こだわり」を確認して、人口が減っていることや地域のつながり薄くなっている社会的事象と合わせて考えられると学びが深まったのでは。

大竹校長先生より

○授業中に学習問題が生まれることがよかった。

○子どもが教材を身近に感じていたからこそその沈黙だったと思う。大事にするところと時間配分を意識していくとよい。

<講師の先生より>

山田先生より

○虎踊りは材として面白い。

○そもそも文化とは何なのか、本時目標の「気付く」とは何なのか。

⇒それは知らなかったことが分かることだと感じる。

○知らない伝統芸能を考えさせることの難しさ、学習の過程で子どもが主体的になっていた。

○今回の学習問題は必要だったのか。調べたことと事実が違っていた。

○単元を見通す問題は子どもだけでなく大人の手が入ってもよいと思う。

○資料の難しさを感じた。自分の言葉で表現できることで理解につながる。

- 資料を見つけたところで終わった。その後の考えることが大切。
- 規約の文言を子どもなりの言葉でもっと理解を深めていくことが大切。しかしそれが子どもにできるのか。地域のことと絡めて考えないと難しい。
- 資料化したものを子どもの言葉にする。できないのであればどうすればよいか。
- 池谷さんの言葉は答えではない。そこから地域のことをどう考えているかつなげていく。
- 自分たちの地域には何があるのか、考えていく。西富岡の発展とはどういうことだろうか、中村を通して考えたことを生かしてほしい。
- 単元計画として、予想ではなく気付きではないか。そして気付いたことから予想する。

藤馬先生より

- 社会科の学習を通して、本質に迫ることが大切。
- 3年で学習した内容から4年生としては県の中での学習。神奈川というとは何か。ここを考えていく必要がある。横浜から離れたところを考えて、地域に戻る。資料化するのも大変。子どもが学習を最後まで予想するのは困難。
- 虎踊りの願いは何だろう。地域の人はどういう願いでやっているのか、今回はそこが難しかったと感じた。
- 本時目標の主語「野比中村の人々が」に疑問がある。今回は「保存会は」でよかったのは。本気の学習問題をつくることより考えることが大切ではないか。
- 「ポスターだって見てないし」「DVDつくったら」などの発言は自分ごととして考えている言葉ではない。
- 中学生が減っていることや虎役を本当に増やしたいと思っているのかなどと絡ませるともっと本気になって考えられたと思う。本気とは具体的事実をつなげていくことで見つかる新しい気付きのことだと考えている。
- 導入の部分でその子の考えの根拠などを深く話せるとよかった。
- グループ活動で見つけた資料は今までに学習した内容だったはず。「保存会のきまりに書いてあるじゃん」などの意見が出てよかった。もっと一つ一つの資料をじっくりと捉えさせる必要があったのではないか。

文責 岡崎 巨樹 (山下小学校)